

森林計画制度における生物多様性 —市町村の取り組み—



図1 ゾーニングのイメージ図

市町村では、それぞれの地域の特色を反映し、独自のゾーニングが策定されています。地域によって森林に期待される役割も変わるため、区分けの仕方も様々になります。図では、豊かな生態系が残る森林を生物多様性保全ゾーン、水源林として期待される森林を水源涵養ゾーン、人びとの生活を土砂災害などから守るための森林を山地災害防止ゾーン、比較的傾斜が緩やかで林業に適している森林を木材生産増進ゾーンとしています。

林業研究部門 森林管理研究領域

任期付研究員 山田 祐亮

我が国では、森林を長期的に管理する計画を、森林計画制度で定めています。森林計画制度の中で、地域の特性を活かした森林の将来像を描くのが、市町村森林整備計画です。ここでは、市町村森林整備計画における生物多様性に関する取り組みとして、ゾーニングと数値目標（指標）を紹介します。

まずゾーニングでは、森林の持つさまざまな機能を地域全体で発揮するために、重視する機能ごとに森林を区分けして、将来像と管理方針を示します。沖縄県やんばる3村（国頭村、大宜見村、東村）や北海道厚岸町、黒松内町などで、生物多様性や自然環境保全を重視したゾーニングが策定されています（図1）。

次に数値目標（指標）については、計画が実現したかどうかを量的に評価できるため、非常に有効な手段です。指標を設定している市町村はまだ少ないですが、環境への関心が高い滋賀県長浜市や、長

素材生産量	20,000m ³
素材生産性	8.0m ³ /人・日
市民参加の里山づくり事業における講習者	210人/年
ニホンジカ捕獲数	1,900頭
巨樹・巨木林保全地区数	5地区(累計)



崎県対馬市などで、生物多様性に関する指標が定められています（図2）。

図2 滋賀県長浜市の「森づくり計画アクションプラン」で定められている数値目標の一部

琵琶湖に面しており、市民の環境への意識が高い長浜市では、森づくり計画（森林整備計画）を確実に実行するための「森づくり計画アクションプラン」が策定されています。このアクションプランでは、多岐にわたる指標が設定されています（例示した指標は、素材生産量が平成31年度、それ以外が平成29年度の数値目標）。その中には、ニホンジカ捕獲数や巨樹・巨木林保全地区数のように生物多様性に関するものが含まれています。